裾野麗峰山の会山行報告書

文・掛橋智美　　写真・全員

山行番　　ＮＯ．１５６６
日　時　　２０１３．１０．０６（日）晴
山　域　　富士山お中道「鉄人ルート」日帰り一周
標高差　　上り＝　　不明（最高到達点＝２８５０ｍ）
　　下り＝　　〃
参加者　　後藤、浜道（先発）、小松、掛橋（後発）＝４名
コース　　富士宮口五合発５：２０－主杖流し６：４５－不動沢７：５９－大沢崩れ上部約２６００ｍ８：２０―左岸モノレール駅（標高約２０７０ｍ）８：５６－大沢を渡る９：１２―大沢休泊所（標高約２３１７ｍ）９：５６―富士スバルライン五合１１：４７―吉田口五合五勺１２：２８―コノスジ道―須走口新五合１３：２３―瀬戸館１４：１３―古のお中道―不浄流し１４：４８―宝永山山稜１５：２３―富士宮口新六合１６：１３―富士宮口五合１６：２５
合計時間　約１１時間０５分

数日前に、今回の登山計画書が届いた。「なんじゃこりゃ」（すみません）と言いたくなるような計画書。標高差の登りは不明、下りは不明、難易度は非常に困難。この山域は富士山お中道だった。「お中道」？？読み方も分らない（すみません）。全く無知だった。当初はＩ上若殿が行く予定だったのに、最終計画書には名前がなかったのが残念だった。

後発隊の私達の車は予定どおり出発した。登山口に向かう途中、雨が降ってきた。「えっっ」私は心の中の声を聞いていた。運転してくれたＫ殿の「天候は変わるから」と力強い声。私の心の声が聞こえたようだった。水窪公園を過ぎ、五合目に向かって走っている頃には雨は上がっていた。空はまだ暗いが夜明けが近づいていた。ふと車窓から空を見上げると星があり、富士山の影も見えた。

今日の山行の期待が高まっていったところに、先発隊のＧ殿からの「今どこだ？５：００出発だぞ。」の電話が入った。登山口まで、後、数分で着く５：００を少し過ぎた時だった。Ｇ殿の厳しい言葉に未知の世界への緊張も高まった。

合流すると「法定速度どおりに走ってきた」（本当です）と、言い訳もそこそこに、ご来光を狙う写真好きな人達を横目にして、出発準備を急いだ。「登るのは今でしょう」という天候に恵まれた。

５：２０富士宮五合目から大沢崩れ、吉田口五合目、須走コノスジ中途道、宝永山を経由し、再び富士宮五合目に戻って来る「富士山お中道一周」の未知の世界、引き返せない山行がスタートした。

Ｇ殿はお中道を探していた。夜明けが迫る薄暗い中、私達はＧ殿の足跡を辿っていた。標高２４００ｍ、始めは登りで直ぐに息が切れた。「いつまで登るのか？」と思っていたところで、富士山の側面を歩く感じになった。と言っても、富士山の傾斜はかなりのもので、体の重心も傾斜に沿って右に傾いていた為、腰が右に曲がったまま

影登山者

影富士

主杖流し

古の道標

大沢崩れ
肉眼では旧測候所が
見えた

モノレール

という歩きにくい状態が続いた。
しかし、私達はご来光を背に受けた自分の影に手を振ったりして影を楽しみ、遠くに、南アルプス、影富士を見ながら歩いていた。そして、溶岩の流れた後を何度も横切った。全く未知の世界だった。
大沢崩れ方面への「立入禁止」の看板が立っていた。立入禁止の先に行くのは私にとって未知の世界だった。しばらく行くと、ルートを見失ったのか、シャクナゲの藪に迷い込んでしまった。G殿の「遅れるな」の言葉に、私は元気だけいい「はい」の返事。シャクナゲに「ビンタをくらい」、シャクナゲに「ザックを掴まれ」、思うように進めなかった。そんな私とは裏腹にH姫は何故かどんどん進んでいった。私はここでかなりの体力を消耗していた。シャクナゲの藪を抜けると、大沢崩れがあった。写真には納まりきらないほどの迫力だった。
対岸の向こうには、また南アルプスが見えた。そして、八ヶ岳まで。元気をもらえた。景色を堪能するのもそこそこに、またまだ先が長い山行に先を急いだ。再び、シャクナゲのかき分け、「勘弁して」と思いながら何とか前に進んで行くと、工事用のモノレールにでた。K殿は折れた木にまたがりモノレールを滑り下りようとしていた。(私も出来るならそうしたい）が、K殿は無理と分かり直ぐに断念。私達はモノレール沿いを急降下し、工事用の急階段を利用し、やっと大沢を渡った。
この急降下の後は、大沢休泊所までの今日一番の急こう配を登った。G殿はハナイグチ茸をゲットする余裕もあり、楽しそうだった。シャクナゲの藪に体力を奪われた私には体力的にかなりこたえていた。大沢休泊所で小休憩。持ってきたビールは、今日の山行の未知の世界の中ではまだ解禁となっていなかった。
大沢休泊所を出発してから、富士スバルライン五合までの勾配は、比較的緩やかで、富士山を歩いているとは思えないような長いハイキングコースで、ハナイグチ茸をゲットし、紅葉を楽しんだ。スバルラインが近づくと、何処まで行くのか、何人もの人とすれ違った。
スバルライン五合、ここで今日の山行の半分以上は来たとG殿が言ったが、今日の予定は１２時間。既に６時間以上歩いていたが、まだ半分ちょっとしか来ていない。頑張ろうと気持ちを奮い立たせるが、観光客が馬に乗っているのを見ると「乗りたいのは私なのに」と心の中で呟いていた。
吉田口五合目へとまた登りが始まった。「そろそろ勘弁して欲しい」何度も叫びたくなった。コノスジ道へ入ると須走口までの道は山の側面を歩くハイキングコースだった。富士山の頂、青空を見上げながら先を進んでいた。
須走新六合目の長田山荘から小富士が良く見えた。ここで休憩した。H姫と現在位置を確認し、H姫は等高線を読みながら今からの登りの標高を教えてくれた。等高線を読めると違う山の見方が出来て楽しそうで、私は登るだけではなく、違う楽しみ方もあるのだと言うことを知った。今日の山行の終わりが見えてきて、ビールが解禁となった。「これで元気になるはずだ」と私は自分に言い聞かせていた。
宝永山に向けて、登りが始まった。さっきのビールの効果が出たのか、始めは元気に登れた。ビールの効果が薄れてきた頃、金時山、箱根の山が見え、奥には芦ノ湖、愛鷹山、駿河湾が見える景色に元気をもらって何とか足を前に出すことが出来た。

立派な石碑

大沢を渡る

大沢休泊所

スバルライン五合手前

コノスジ道

須走口新六合

しばらくすると宝永山が見えてきた。こんな形の宝永山は見たことがなく、感動した。そんな気持ちもつかの間ですぐに登りがやってきた。今までの疲れが「倍返し」に感じる厳しい登りだった。

やっと今日の最高到達点である宝永山が見下ろせる場所に着いた、すでに１０時間歩いていた。小休憩をとり、夕暮れが迫っていたので先を急いだ。宝永山に向かって下りが続き、火口を一気に下った。下った後にはまた登りだったが、頑張ったご褒美、宝永山の素晴らしい姿が見ることが出来た。景色を堪能するのもそこそこに、富士宮新六合への最後の登り、そして富士宮五合目まで一気に下り、無事にゴールを迎えた。「おつかれさん」恒例のＧ殿との握手をゴールで交わした。その瞬間、長かった山行を思い出して、無事に着いた安堵感、今日の仲間への感謝の気持でいっぱいになっていた。今日の山行にＩ上若殿が参加出来なくて「残念？」だったかは、この４人の仲間だけが知っている。

追伸＝Ｇ殿がゲットしたハナイグチ茸の「お、す、そ、わ、け」。汁物にしておいしく頂きました。ご馳走様でした。

宝永山が見えた

山行はフィナーレ

その他の記述（後藤）

１．主杖流しは、綺麗な溶岩流。頂上まで続き、上ることも出来る。

２．標高約２６００ｍから大沢崩れを仰いだら、頂上の旧測候所が見えた。

３．モノレールを下りきると駅がある。このモノレールは、大沢で作業する方を運ぶものの

ようだ。物凄い急登なので毎日往復は大変だろう。

4．駅下に立派な石碑がある。「左岸道口　標高２０７０」と刻まれている。ここから作業用のアルミ製の階段を下ると大沢沢床に下りられ、対岸に渡ることが出来る。使用可能な作業者用の簡易トイレもある。

5．大沢休泊所で駿河小山パーティー数名に会った。富士宮口６：００発といった。５：２０発の我々を途中で抜いたことになる。実は大沢渡しに来るのに主杖流し先から「天の浮橋」と呼ばれるルートを来ると早い。我々はこのルートを見落とした。

6．小山隊リーダーは山達者な感じだった。先日、大沢休泊所から大沢右岸を上り頂上に達したという。それ程若くない感じだったが、凄い方だ。富士山ガイド？？！！かも。

7．スバルライン五合目には観光用の馬が数頭いて、吉田口五合五勺方面まで運んでいた。これは、次回世界遺産更新時問題だろう。これは動物虐待だ。

8．須走口瀬戸館から宝永山は、古のお中道で素晴らしい「天空の散歩道」だった。

9．須走口新六合で私も「禁断のビア」をＫ嬢にいただいた。美味しく元気バリバリだった。

10．その後、山仲間が同コースを歩いた。１２時間だったそうです。

11．天候に恵まれ長い間懸案だった山を達成して満足感で一杯だった。

イイ絵だ！！富士山万歳

Ｇパパ、ご苦労様でした

記念撮影